

明治三十年己亥七月二十九日執筆

左院大議生日記



辛未四月廿一日到青分



早稲田大学図書館
文書 27
A 35

明治四年十月六日到青台

左院大議生拜命



明治四年

己亥七月二十日



十月二日舊萬平萬迄、後藤儀長ヲ招飲九院、大中少
議生ヲ置、分課ニテ事ヲ議シ候也

木戶參議大久保大藏卿岩倉外務卿洋行公使被命十月十
者出帆右來春本條約延期、使節ナリテ伊藤ニ部ヲ稱
毛派出、也

四日明日第九時禮服御用式部察、中來

加禮服着用縣廳大屬池田新次郎日通式部察、出款
大橋式部權助、御書、沙汰、也

宮島誠郎

任大議生

右

宣下候事

辛未十月廿日

太政官

同日拜命任中議官

鹿兒島藩權大務事
伊地知正治

任大議生生日精

六日板垣參議後藤藩議長森寺邦輔小室信夫同行右明
樓會飲

七日木村寺新田三郎中議生拜命

議長忠勤佛蘭西人ハッスウ九院御佳中立濟、相成り外務省より

横濱佛公使照會事

命

八日岩倉外務卿任右大臣昨日山口縣權大老事杉重華任
宮内大臣

九院出勤 此日舊藩知事御用召、相成三條太政大臣御造

東京府知事黒田清綱出陣

方今宇内開化時實用材ヲ養ヒ候事最急務ニ候殊
華族西民、上ニテ衆人、標的ニテ可相成儀、分今般一同輩
較之下、被召親シク中外開化、進歩ヲ察シ聞見ヲ廣ク智
識ヲ研キ國家、御用ニ被為充候御趣意、俟余各奮然及勉
勵可致事

十月八日

太政官

族之常職之解と建管其縁券の所光の四民平均之
大勝ありあり且兵制を成りて、余副長と為る忍不
后海者し、其、君臣と誦、事

午後板垣君議来院伊達氏入清議約之成議
事あり第二箇、更、権強之條約あり、其、清國と彼此
相助あり、各國條約と更、異あり、有事之時、援兵と
出、助力を以て協力を圖り、司法、下し、明
可然且清國を以て、使節を流し、各國日條之條約あり
改正あり、至當あり、論あり

山口縣小幡君七少議官拜命

十、其、後藤定長、議長江藤列議長谷本益西岡少議
官章程規則、當議左院大結、秘月、以皆、出動
入清議約、之罪案成、後也

十七、其、後藤少議官歿、之見官、洋行歿、也、英忌留
學、三、年、之、歿、也

且院、其、山、去、宮、多、高、山、入、澤、其、談、舊、知、事、之、歿
羅、也、行、之、其、附、屬、誰、人、の、然、歟、と、起、評、以、存、仍、自、分
午、坂、舊、任、留、之、推、考、之、及、之、忠、立、之、事、即、皮、高、山
ら、し、也、其、山、生、之、事、也、其、方、快、事、之、真、報、不
と、丹、心、母、其、天、地、の、事、歟、其、事、有、其、法、也、其、事、也、其、事、也、

廿九日奉朝令交御使節洋行各國同統之次第
此不修歲上之教法及游歩記程之辭林不修
同統之次第不修成也之也教法之修片辭林不修
隨考之改之節之也憲章之月起事之也之也
深之考案大使出帆之也改議之事

十月朔。於高山入東上杉公之留學英之這門弟子
之在極之考案之也修片辭林不修之也之也

二日九百奉朝而議長出勤

此日北越及奧州七州諸縣合制新縣之也置羽
前之置賜山形酒田三縣設置米澤縣設置鹿島

人高崎伊太郎改五五六之置賜縣之事之被任

三日少議官以下議長宅之集會章程改議

仙石少議官酒井少議生兒官

四日洋行使節之安全之秘秘省之也衣祭之也

九百奉朝改正之章程評議 大村晴文任少議生

五日奉朝正副議長之章程之大臣内消見之也之也

高正院之進達

伊地知中議官始之出勤

板代山奉事北澤職之助任中議生為崎豐之也

鹿見島之人任少議官理事官之也洋行之也作甘也川大

立記任各議生理理事官隨行中所
右有人常院所用多後傳船多極之談
退朝後必少議官之舞

六日議長と谷一系と多事口を

今日洋行佳即方三條公招櫻原西郷板垣

若議相伴の未可者考話

由利東亞知事と訪鹿兒島野三島千木人物

如付以人々東亞府控奉事五著進の如く安月向縣

因格格保多困却

九院章程之義九老國議院の準し上下議院の真

正則の創立改定議長議官取調の成候處三條

若倉面直内院、上箇様之章程の最初之改定

中丘院左院右院三院創立、目途相違の當否

難行仍の改定、義の然者大臣、同意の片取

之章程改定、相成上長侯義のと東より行政論者

より其忘候視せし、決り過分の中より其

望忍の白將來民生の為、議事の保者

義事要事

七日小笠原幹利田縣奉事拜命

今由利の一刺巻の一置賜奉事の事、其

西倉政方よりお托す

八日宮内大臣吉井友實任宮内少輔

早曉高崎共六条身御寄り候御願置賜歟

多分之義一式私心之不用也亮見之可也

少身仍成成長百端之満候より已年改革之為端

庚午辛未之改革より人情事態詳悉より大感

激之及心始之施政之方法と得たり候御願置賜歟

第一聖考より有る法政温之用より之人の得る肝要

あり是より御方次より千坂階長洋行推考より祖宗之時女

御老公賞功士族禄制考より大誠意出候御願置賜歟

中書省の事書すお托す

高崎藩陳情曰く遺賜奉奉拜命收受事免要不

辨仍西より西郷奏議より遺賜候事七領得候

御願置賜歟及御方次より西郷より御願置賜候

前米御書盡力深く之情を察し其人之得る御願置

候御願置賜候御願置賜候大段お托す御願置

御願置賜候御願置賜候御願置賜候御願置賜候

御願置賜候御願置賜候御願置賜候御願置賜候

御願置賜候御願置賜候御願置賜候御願置賜候

御願置賜候御願置賜候御願置賜候御願置賜候

御願置賜候御願置賜候御願置賜候御願置賜候

御願置賜候御願置賜候御願置賜候御願置賜候

御願置賜候御願置賜候御願置賜候御願置賜候

御願置賜候御願置賜候御願置賜候御願置賜候

御願置賜候御願置賜候御願置賜候御願置賜候

朱躬極垣登瀛九院より曰く先日高崎へ来り地
有る身人オ點陸より藩情を慮抑むる細細を腹に
吐石ぬいたし高崎の是事ありて一に又伊地中議及
高崎の議及より七少子面命より高崎の面命は年々
輻輳出でて年々之を名に御天地の貴微なりは之を
感也。今より民法原より也

此日木戸参議あり中村梅之助等とて退却後若
念大臣大久保卿に見せ給ふに夜た久保卿久保所
有、別をて後、一、年分次有る事あり火面、火
成り、我富平より家宅の灰燼となり千三百、焼失

年

天明鎮火枕席の暇、愛の白地上雲尊より愛の立世
九日旅箱敷焼方丸院に不始御出

十日岩倉大臣以下全權公使后日東京を及り岩倉
大使の隨和の衣冠を常と奉拜馬上より揚旗の以向
参朝を、八、市下問の宗門に案の各議あり出り、
別論得少議官の議の均一

去んハ、三、條在
萬國に並立し目途を分るる尤之件、御議定を、
海軍と存候

一、内外人民婚嫁の通に候儀可許哉

一外民之難居可許哉
一洋教漸次發軔之概あり之ヲ獨言ハク

辛未十一月八日

九院

此一冊之積年、有志之遂明治年未、秋
政府初ニ左院ヲ創立シ議官ヲ組織セラシ時
當リ其命ヲ奉ヒ勤勉ス

ル日記ナリ

戊申四月二十日於大磯清書

七十一翁栗香



年

